

# ALUMINIUM NEWS

アスカ工業株式会社アルミニウムニュース

第 634 号

2014年4月1日

発行

アスカ工業株式会社

〒444-0303

西尾市中畑町卯新田上28

## 平成26年度 1.3%増

### アルミニウム二次合金・二次地金需要見通し

一般社団法人日本アルミニウム合金協会は、3月14日、平成25年度のアルミニウム二次合金・同二次地金の需要実績見込みと、平成26年度の同需要見通しを発表した。

これによれば、平成25年度については内需中心に景気回復の動きが広がり、企業収益の増加から設備投資が持ち直しつつあり、雇用・所得環境が改善し、景気回復が確かなものとなった。

当業界は為替相場の円安傾向と消費税率引上げに伴

う駆け込み需要の影響を受け、主需要先の自動車業界が下期より活況を呈し、同時に海外生産用部品輸出が増加し、鋳物・ダイカスト向け需要が前年比プラスとなり、対前年比104.5%と見込んだ。

平成26年度は、①鋳物・ダイカスト用は税率引上げによる自動車生産の減少は予想されるが、部品輸出は旺盛のため、プラス成長が見込まれる。②圧延向けは缶需要が微増。③鉄鋼向けは減少。トータルで3年連続のプラス成長の101.3%と策定した。

### 平成26年度アルミニウム二次合金・同二次地金需要見通し

(単位：トン)

項 目	平成 24 年度	平成25年度実績見込み		平成 26 年度 見 通 し	
			前年度比%		前年度比%
鋳 物	304,420	327,900	107.7	330,600	100.8
ダイカスト	933,866	972,500	104.1	991,400	101.9
圧 延	186,518	189,400	101.5	191,300	101.0
鉄 鋼 ・ そ の 他	115,500	120,000	103.9	118,200	98.5
計	1,540,304	1,609,800	104.5	1,631,500	101.3

(注1) 輸入地金を含む。

(注2) 平成14年1月より、経済産業省統計の統廃合があり、鉄鋼・その他は当協会推定値となっている。

連休の  
ご案内

ゴールデンウィークは、下記のように連休といたします。あらかじめご案内を申し上げます。

4月26日(土)～5月5日(月)

# 日軽金アルミ製錬撤退

## 国内製錬姿消す

日本軽金属株式会社は3月14日、アルミニウム電解事業から撤退すると発表した。同社の蒲原製造所（静岡県清水区）におけるアルミニウム地金の生産を3月31日で終了する。

日本のアルミニウム製錬事業はこれまで2度の石油ショックを経て崩壊状態となったが、同社が富士川沿いに持つ6ヶ所の水力発電所から電力を調達できるため、同業他社がすべて撤退した後も日本で唯一の生産拠点として操業を続け、直近の地金生産量は2012年度が4,141トン、2013年度が2,600トンとされている。

同社製品は平均純度99.95%と一般に市場で取引される地金99.7%より純度が高く、主に同社の電機・電子分野向け高純度製品の材料として利用され、多くのユーザーから高い信頼性を得てきた。

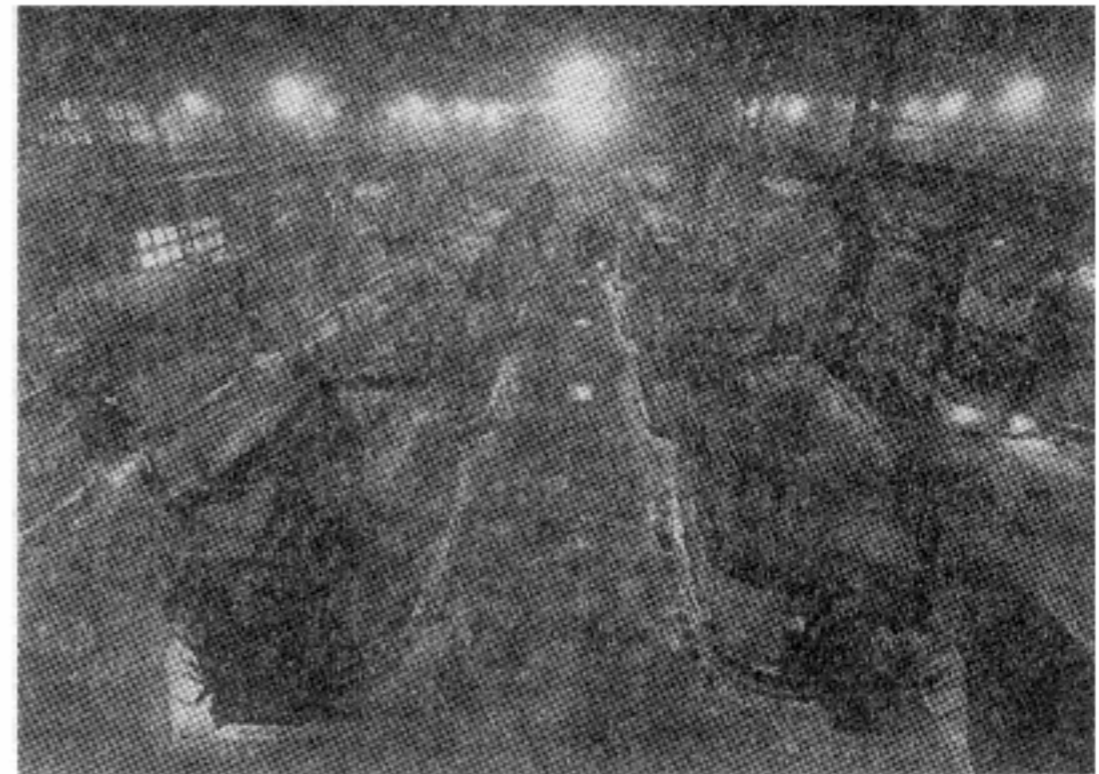
しかし、蒲原製造所の電解炉および付帯設備が老朽化して更新期に来ており、今後電解事業を継続するためには設備更新に30億円程度を要することから、同社は総合的に検討した結果、老朽化設備を刷新しても採算に合わないと判断、電解事業の終了を最終決断するに至った。

日本軽金属株式会社は1939年、古河電気工業と東京電灯（現東京電力）の提携で、アルミナ年産10万トン、アルミニウム年産5万トンと言う当時は世界有数のアルミニウム会社として発足した。

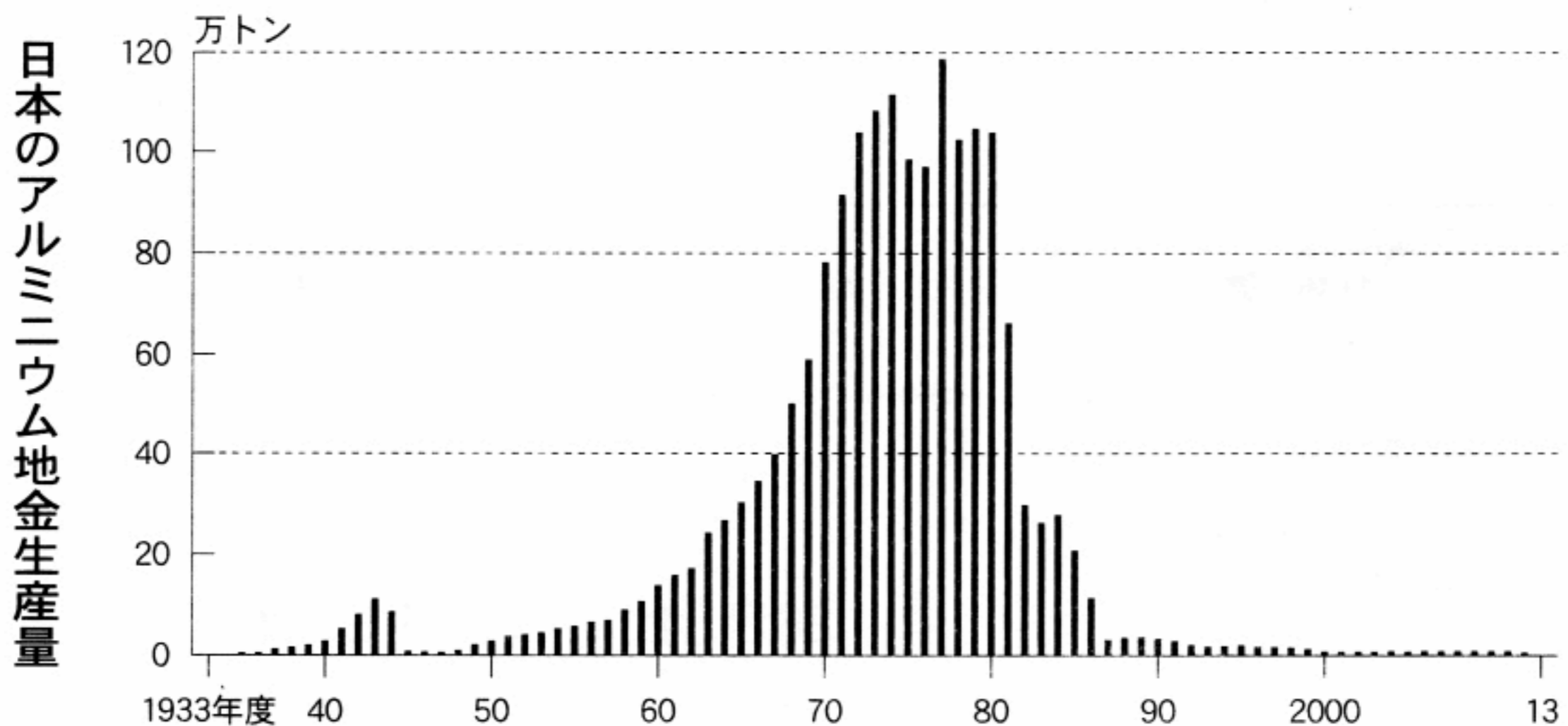
アルミナ工場は蒲原に近い清水に建設が開始され、翌1940年10月に製錬事業の操業がスタートした。開始時の能力は年9,000トンだったが1943年には36,000トンまで拡張された。

第2次大戦後、アルミニウム需要の急拡大を受け、蒲原製造所は1974年には年産能力113,000にまで拡大した。

日本のアルミニウム製錬は1934年に昭和電工が開始したのを皮切りに日軽金、住友化学、三菱化成、住友軽金属と相次ぎ参入、1977年のピーク時には119万トン生産したが、石油ショックの電力料金高騰で撤退が相次ぎ、日軽金が唯一の生残りであった。



蒲原製造所のアルミ電解工場



## 1 月生産

アルミ鋳物  
ダイカスト 需要堅調

経済産業省がこのほどまとめた1月の生産動態統計によれば、アルミニウム鋳物の生産量は前年同月比3.4%増の34,681トン、アルミニウム・ダイカストは同10.9%増の81,266トンだった。

堅調な自動車生産を背景に、鋳物、ダイカストともに5ヶ月連続して前年水準をオーバーした。

アルミニウム鋳物は全部門が前年同月比でプラスとなった。主力の輸送機械は、好調な自動車生産をうけて5ヶ月連続のプラス。一般機械も、7ヶ月連続して前年実績を上回った。

アルミニウム・ダイカストは、一般機械と二輪車を除く全部門で前年同月比プラスとなった。自動車は好調な国内生産に加えて、海外生産向けの部門輸出が堅調に推移したことから、7ヶ月連続のプラスを記録す

## 1 月アルミ鋳物・ダイカスト生産

(単位：トン、%)

	14年1月	13年12月	前年同月比
鋳物	34,681	33,338	3.4
一般機械	636	668	7.4
輸送機械	32,950	31,686	3.1
その他	1,095	984	11.6
ダイカスト	81,266	77,876	10.9
一般機械	2,450	2,434	-4.3
電気機械	1,493	1,477	10.2
自動車	72,435	69,003	11.9
二輪車	2,431	2,482	-0.4
その他	2,456	2,480	12.7

る結果となった。

一方、二輪車は軽・小型二輪車の生産は好調であったが、前年同月の水準が高く微減となった。

一般機械は21ヶ月連続のマイナスと低調に推移している。

今後の生産は全体的に堅調に推移すると予想される。

## 「PM2.5 注意喚起情報」発令

3月18日 愛知県ではじめて

3月18日、愛知県は大気中の微小粒子状物質の濃度が上がったため、愛知県内ではじめてとなる注意喚起情報を発令した。

屋外での長時間の激しい運動や、不要不急の外出を控え、呼吸器系や循環器系に疾患のある人には体調に応じて慎重に行動するよう呼びかけた。

発令は尾張が午後1時、西尾市は午後4時に出された。市内全域の非常警報装置でこの「PM2.5注意喚起情報」が放送され、全西尾市民を驚かせた。

## PM2.5とは

PMはparticulate matterの略で「粒子状物質」の意味であり2.5は直径2.5マイクロ・メートル（1マイクロ・メートルは、1ミリ・メートルの千分の1）以下を現わす。つまり「直径2.5マイクロ・メートル以下の小粒子」を意味する。

代表的な物質はディーゼル自動車や工場排ガスに含まれる「すす」であり、粒子が小さいので、吸い込む

と鼻やのどで止らず肺の奥まで入りやすい。

このためぜんそくや気管支炎を引き起したり、肺がんや不整脈の危険が高まったりすると言われている。

## 注意喚起情報とは

厚生省は昨年2月、PM2.5の量が1日平均で1立方メートル当たり70マイクロ・グラムを超える恐れのある場合には「健康に影響が出る可能性が高くなる」として都道府県は注意喚起情報を出すことにした。

このときは、なるべく外出を控え、部屋の中では換気や窓の開け閉めに注意する。特にのどや肺、心臓などに病気のある人は慎重な行動が望まれる。

## 中国の場合

中国環境保護省によると、主要74都市のうち環境基準を満たしたのはわずか3都市という。北京では常時100マイクログラムを超えており、原因はエネルギーに石炭を多用するからと考えられている。偏西風に乗って3～5月には日本へ渡って来る。

## 西尾城桜まつり

4月5日(土) 〈みどり川桜並木〉

金魚のつかみどり 花見茶会と琴演奏会

鶴城ヶ丘高等学校音楽部の演奏会 サクラハナイチ

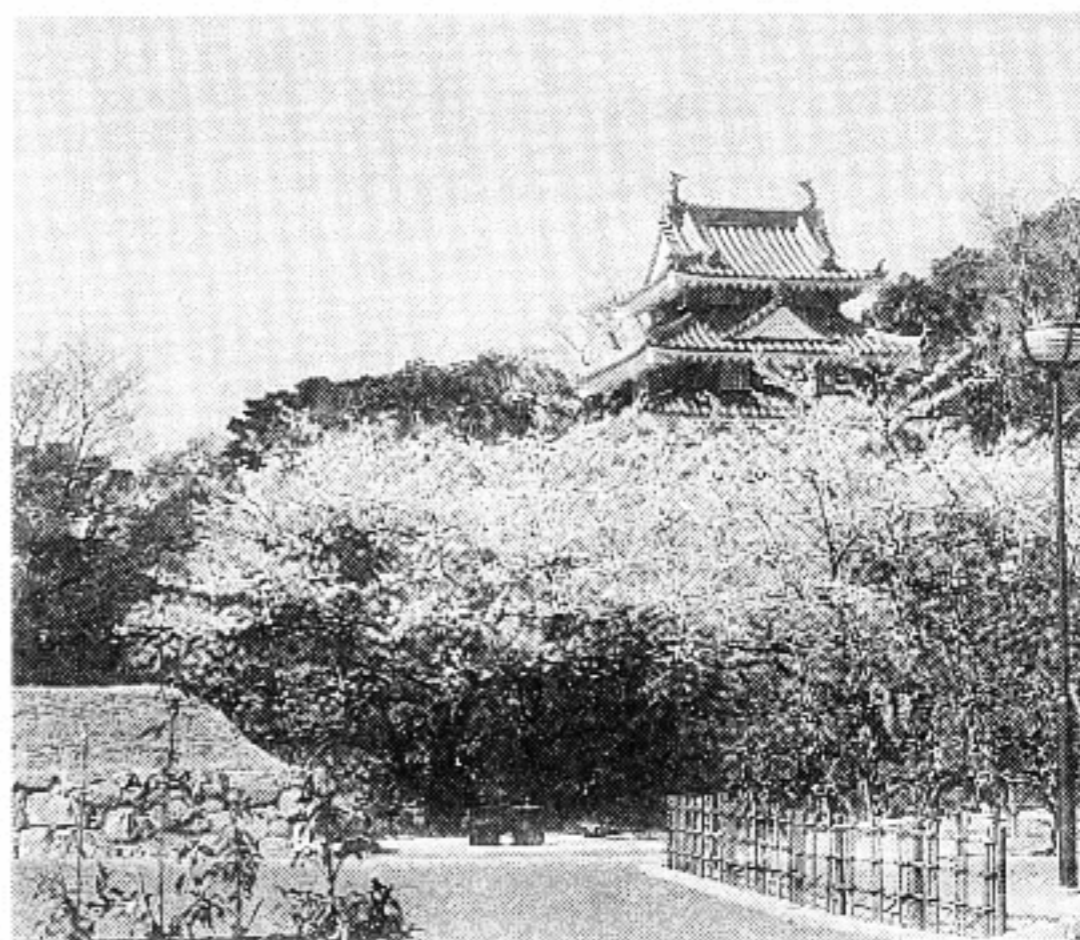
4月6日(日) 〈みどり川桜並木〉

みどり川コスプレ桜まつり ミニSL乗車体験

金魚つかみどり うなぎつかみどり

〈本町通り〉

阿波おどり フラメンコスタジオ 抹茶フェスタ



## 社内情報

- ◎3月18日のPM2.5注意喚起情報の発令には、当地方にはじめてのことで大そう驚かされました。何が起きたのか分らず困惑いたしました。この程度のPM2.5の濃度は目やにおいで判定できません。
- ◎北京ではこの冬「人肉空気浄化器」と皮肉が言われ、自分たちの肺がフィルターがわりに使われていると絶望の声が挙ったと言われます。

## 編集後記

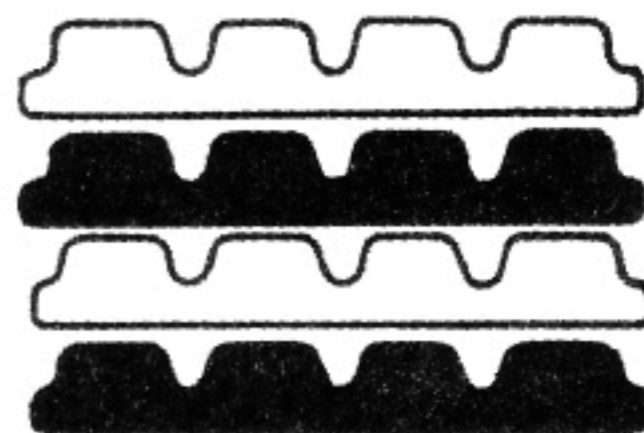
- 回日本軽金属株式会社蒲原工場におけるアルミニウム電解工場の閉鎖は、日本のアルミニウム製錬の最後の灯が消えるもので、淋しい限りです。
- 回74年にわたる長い足跡は、第2次大戦中の航空機生産に大きな力となり、戦後は急激な経済成長を大きく支えた力となり、日本のアルミニウム史上に長く残ります。

## アルミ缶リサイクリング 鋳造用アルミニウム合金地金

アルミニウムそのものでは強さ、加工性などの点で不十分で、銅、シリコン、マグネシウム、亜鉛、鉄、マンガン、ニッケル等を用途に応じて添加合金しますと、非常に優れた強さ、鋳造し易さ、加工し易さ、耐熱性などが得られます。添加金属は非常に微量の場合もあり、そのため厳重な品質管理が要求されます。当社では発光分光分析装置を使用して、迅速・正確な品質管理の下で非常に優れたアルミニウム合金を作り、日本の産業の発展に寄与しています。

ISO 9001 審査登録

# アスカ工業株式会社



〒444-0303

愛知県西尾市中畑町卯新田上28

TEL <0563> 77-0500(代)

FAX <0563> 77-0501

<http://www.al-asuka.jp/>